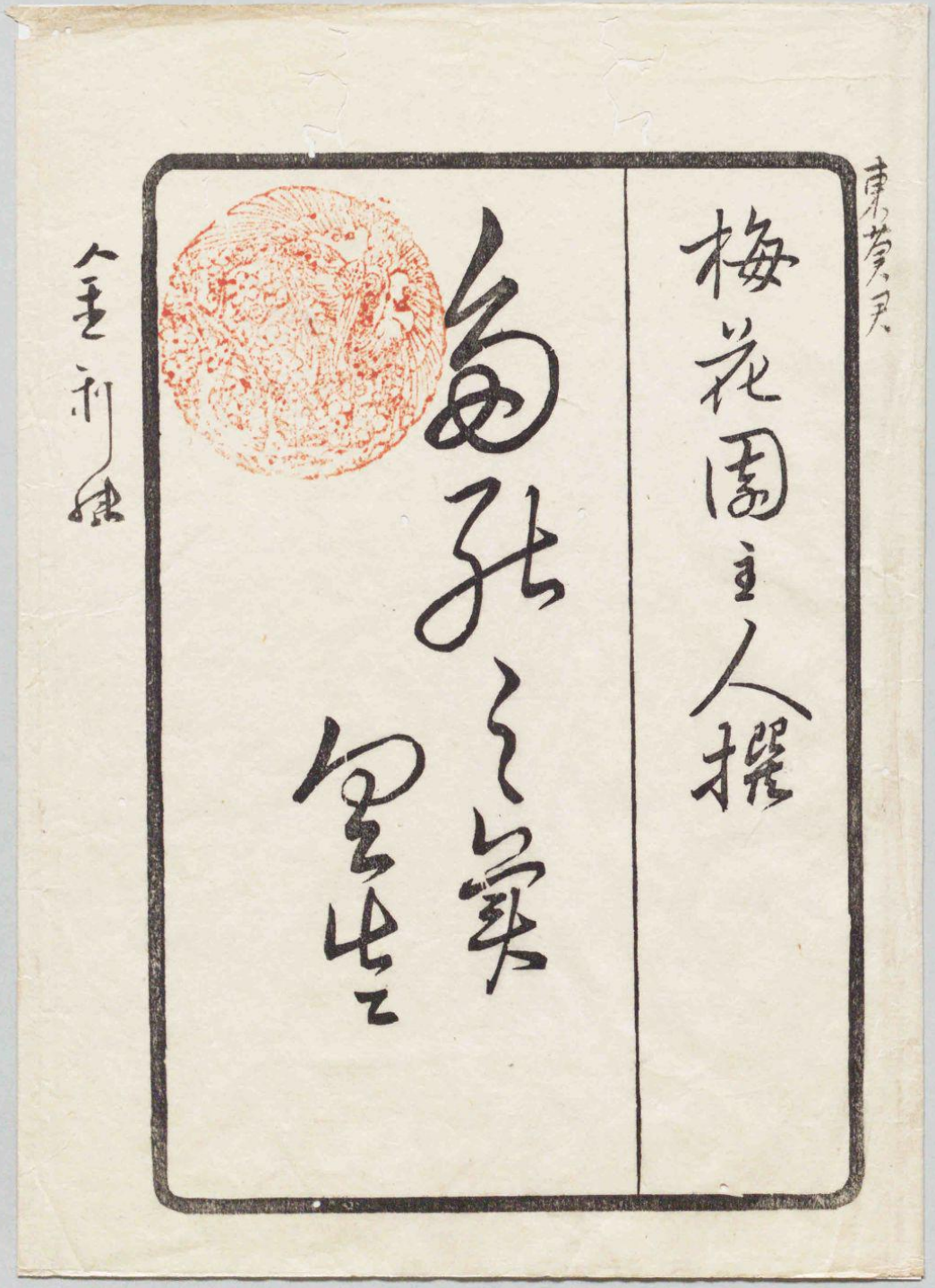
東夢天
梅花園主人撰
爲孫子蕙
金彩

Kodak Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
© Kodak, 2007 TM: Kodak
C Y M

愛知県文化会館

樂しい草

愛知県文化会館
508766

W911.35
オカ
508766

おもひかけなくこゝにかゝるの
名をあまたのなかにひきて
句〻ハ歌ハ〻〻深〻〻我も
ふるこゝろをこゝろ別〻ハ
慈悲をもて手をとり慈悲を
施こゝろ婦こゝろとゝのゝはゝ
記ふ折ゝ〻我世生業の
婦こゝりまゝ合こゝこゝハ

無何なるゝまゝ捨んも捨
ゝもこゝろふこゝろ合こゝ
こゝ〻ハ梅百生のこゝり
れハこゝ名のふかゝ人を
已ゝかゝ教こゝこゝ我
いゝゝもふゝ業ハ初〻〻と
ふ生の業一処ゝ住て
たの一夫子と名ゝて

しるべ乃ゆきの曾

文政己丑秋

喬松庵其洞

○小紀八しき

市中やちやのあるじの門　山シロ

別くるゝやなるや花と海の音

一所ひ市ハ皆なるゝ鳴子れ

月の出をひとるとつく鳴子れ

宿禮よ茶菓とつと辞よりう

壹百の降日も出すや道者舟　ミテ

さハ〳〵堂立や梅咲涙の内　ハリヘ

一延舟へとりう盃れ月

一路　杜泉

風臺　花央

渭川　賣花

墻東　東宇

喜の山雲ちとしほ海ゆ　イセ　蘭舟
つゝ作れ賑合ふ風のそゝ紀ゆ　、　椎下
五月雨の人見てゝ江ゆ古し　、　推古
ふハ〳〵や秋を蚊ちゝ鳴きゆ　黙我
酒さゝ寸あゝ芭蕉の月ゆ人　一夢
佛を馬の数もふへゝる柳ゆ　ミカハ　守中
末へうつゝ時ゝ一所ゝ稲雀　、　下睦
ゆ月や陣あゝきゝ作末殿　止園

○ひしゝ紀

押ゝけゝくゝのゝ寸庭や閑古ゝ　阿溪
明ゝゝ戸のこゝんてちゝゝ秋の山　呂川
雲ゝもちけゝや雲れ俊ゝ来ゝ　イセ　梅痴
閑寺や芳ゝゝゝ水のゝ　、　春樵
苗代ゝゝゝる伽藍の蛙ゝゝ　サヌキ　潮吾
幾度も根水見ゝる出ゝ枯地ゆ　タンハ　俵瓜
蛛の衣や閑ゝの家の灯ハ細き　サウマ　英之
抱籠ゝゝゆゝの色の秋を置ゝ　、　峰茅
嵯峨ゝゝ出ゝ一ゝ雲ゝゝ紅ゆ　箕張
京ゝ恭富や地乗の花巻　駝六

数の木乃葉くゝつる小菊が
賓頭盧が指よゆしつゝ秋の雪、
奔来よこうもかゝるぬ梅の毛、
仮物のあつて淋しや蕭は蓋、
汲家のそゝぐもたゝぬ清水が
笛も事よ恭恵しうり炭俵
鳴つまぬ水鶏や雨ゝ淋しいう
まゝ雨よ自ちゝもて暮の夕
鳴山人ゝ勝よのゝゝや蟋蟀
恭恵ゝて家のあまる自夜が

ミカハ

常丸
麗中
梅岳
東雲
桃弓
芝石
琴笛
亀友
柳意
草方

ミノ
セウ

蕉の葉ゝ向ひの法寺が
庵の大野よつくゝつて時雨ゝ
貴船ゝ扇ひろゝ月の出ぬ五月雨
登時ゝ月のゝゝ来る時雨が
二葉三葉幣ゝもかゝる篠笹が
ゝゝ小ぬハ淋しき庵の夕ぶ
帆柱ゝ乙ゝ見ゝや旅の秋
ちゝ一葉弾ゝ立流ゝ夕ゝ
小玄蕃ゝ蝙蝠くさゝ十三夜、
肌寒ゝ第ゝ月のこゝ迄のゝち

イセ

山シロ

真暁
番民
有樹
加里
子温
之信
月庵
芳美
霞岫
魚諫

山里や夏たち来る水潦　梅尓

○花やうたち

俗人の姿見よ出る面やうな
花の春や戸を明れば月も有
雪とし山高色見ゆれちる梅　鷲風
山ひとつ雪惜みたるさくら哉　晩翠
月の出るやしたよ雪さくら哉　宗棟
杜若　琴弾て水よして来る　春雅
花の戸残押くしれあしれ　雀池
　　芙九
　　其松

暁の梢哭よ落ちやむの風
ぬれるのう嬉しい花の木下陰　梅巷
花を持人ちまちとなるきを　雀巣
社園哭や人よもすもし月の顔　節之
月よ結花よ人りるも花やうき　千尋
耶ついて義哭をうるあしれ　里也
花の春やうち朱樹てもよひく　雀叟
花さうや蘇うち来る燈のいき　松園
夜をこめて素てめうりえる梅　真平
梅よよはい落ちの白ひう邦　志朗
　　月滝

月見の山を四面に菴の那　大タニ　如水
旅誘ふ弥生の自ふく梅の花　セツ、　藍外

○くもみぢ

雲見ぢ〳〵ゑあり〳〵ゆきの日和　ミカハ　朱芳
蚊の聲のたしなみ雲の峰　、　游鳧
漁火乃ともし業する竹の葉哉　、　青可
あるを見ん〳〵風呂と入棒や梅の宮　、　山石
水仙や掃〳〵せく〳〵ある葉〳〵　、　素眉
蕎麦の咲や蕎　立のひとを云　一樂

〳〵ちまちと杉木こゝろや秋の雨　青雨
氣庵茶や年〳〵ねて換〳〵む　アウミ　舒六
人ちのしけハ持ち冬木立　イセ　菊所
明て来る松ハとこゝそ五月雨　霞松
青梅よ〳〵〳〵雨のまひび　猪山
網代ち明る月　心〳〵よ　トヲフ　李峰
ぬんてハあるくに年一木下闇　山シロ　旦齋
掛織〳〵ハさハ〳〵〳〵の月　エチコ　子山
来る人ゆきせて変敢蚊遣草　里泉
雁鳴や朝の焚火ち老のこの　サウヘ　泰甫

り燒の古い樹を五月雨　周雅
秋陳列上げける佛ゟ　守月
歯朶の緑けかるし窓ゟ　道雄
いつもあちこちの鳴る閑古鳥　玉翠
一株を石ゟ咲つく芒ゟ郷　多寿
しらぬ来やうを秋の耳の垢　如雪
夕くれをとりてあつしや山の雲　斗山
茶の香や蝶の来るのあもハある　寿葉

○うら猪しゝま

あつさもしゝ菊ゟ西ゟのてりゝ（吹）　松陳
志ゟるゝや垣の結目ゟ栗一ツ　梵雀
夏の月月ある人ゟ舟て来ふ　杉月
延伸れハ蕨て白ゝゝ柳の花　茂堂
涼しさや日ゝ蔭かゝる月ハある　鵬南
里ひつゝ蕃や清水と勝鄰　望年
ついと来て舟ゝゝ寄ゝる宿下　文郷
舟ゝゝも接拶ゝゝや勝月　古谷
船ゝゝも知人ゝゝゝゝ身　古猿
紙糸の垂れにハく柳ゟ　玉泉

物洗ふ音や嘉礼水　舊鹿
塚梅　梅雨ふるせハ白い気　三貞　梅老
菜の色や泊瀬の風呂支度、　稲居
水ゆけ川なりなり初霧、　守路
もち米や　思ハてゝ　花の実　七十翁　之桁
川風や　男ふ所ゑ　蚊を逐　チクセン　斗丈
蕨ゆゑ　ゆさハうて　ゐる小屋　イセ　照星
菜菜れ世のおよせぬ　居所　雨木

○夏かなの部

煙ゝ　ハ　ま　こ　ゝ　ゝ　に　藝家　サヌキ　今是
川音の　浮世　細り　や　秋の　ゆ　き　イセ　翠峨
山れ日乃　弱　ゆ　や　蕎麦の　刈　倒し　蘭圃
水仙や　日の　節　雨　ゐ　花の上　百賢
植の口ゆ　水音　減り　て　水　鶏　雪庭
鹿　鳴　や　身　を　尾上の　杉の上　里晩
秋　立　や　消　し　立　て　る　香　消し　ヒセン　甫旧
木　ゝ　れ　つ　ま　ふ　ゝ　人　も　つ　丁　の　別　ゆ　セウ、　梅窓
旅人の　ゝ　け　き　て　て　り　雲　ゆ　雀巣
三　り　身　や　蔦　石　な　れ　ハ　の　香　ムツ　文骨

雨こかす紅葉ちるや隣の塚　雄福

義栗の音も花ふる森は月　雀二

つくづくとかもとりの子の声　橘青

牡丹ちる初ゆふ長し二日月　吾柳

橋のもとかしてしりの初時雨　東翠

宮の塚の下し滝し秋の水　ヒコ　堂白

陸んとしてうちしし三日月　三カハ　石業

山水や枯木あるもとんこう　一馬

舟借し社頭ちるまし蜆汁　杉呂

川上の森ちいさし冬の月　巣李

蕎麦小てちるや岩井の下あり　卓池

○いさ海道記

道中の名残ありうす　柳　なな　山ンロ　兆三

義経ふる山ちりよ時雨　千丈

秋立やいつもいハもぬ鞠の味　雨耕

義経水や上事情よ走る井の車　アウミ　石鼓

ねぶかし　旅よし　翌ハ山さくら　花鶴

切れ中のうし　湯ちるや夜波の上　龍士

市板川　義経流　杉柳　庭丸

走り来る流れの雑子や　佳雄
駒牽も月の名残よつれなかり　菊園
汲てのく人もまれなる清水哉　北泉
誘はるゝまでは待も梅花哉　茂陵
雑子鳴や明ぬまくるる磯の風　蓬雨
嶺の雲のあひつきれは言葉哉　保舟
とゝ〳〵と舟漕て来る柳哉　真葉
ちんゝ〳〵と教てうをつい釣る雪　半岱
涼しさの流れて来るる竹筏　相雨
長閑さや波も鼓打る魚よき　佳昌

駒牽や多仮山の宵月夜　梅斜
思い立旅や見るゝ雪を友　不若
雀ちゝ〳〵喜のいよ来るかり　杜卜
ゝ〳〵起しゝ勇ゝ折や梅の花　梅室

○見事なる

路やてゝゝゝゝ花の下ゝ坂　秀外
鳴ゝゝゝ菜ゝハ日の月夜哉　羽白
見れの鳴も南す花の山　宜角
人も多き山ゝ梅の家ゝかり　茶静

山を出て いつもきりの人形の雪
[illegible]
人多のさりぬ色乃 牡丹の
[illegible]
水辺の色 小舟 牡丹哉
京ふつて一いきさせん 雨の萩
[illegible]
[illegible]の花 戸の明るを 猛烈の
梅咲やりそうに花をうを
ちる花のかよ 散きう 流きう

サツて 巴源
伏石
九山
ミカハ 桂甫
欽哉
李風
椿逸
セワ、 都岳
竹聲
羽休

タンハ 野楊
エツ中 玉脂
いりて 琴州
以文
イセ 阿穎
古暁
ミノ 亀堂
ヒツ中 閑齋
山シロ 世南
以貫

梅ら長や 叩て居ハる 人乃 跡
鞠持 [illegible] 家の戸ら出るうり
山茶花ら 小 [illegible] おそうも
森入まして 戸ハ [illegible] 梅ら月
菜の花や 来ら [illegible] に 蕪
菜の [illegible] 塗り 弱の 七曲り
四五ら乃 雨ら 指ら [illegible] 不 [illegible] の月
初雪や 雲色あまりて 変を 欲
ら梅 起ら 一 [illegible] 雪の 長
正面ら 家長 [illegible] 杜義

○あつまき

琴州　曾夢　席睡　左琴　湖風　方鳥　于當　梅岡　當

[illegible]の杉を松として雲の月
[illegible]けや梅[illegible]のこゝ[illegible]郷
[illegible]ある畑のあつまき　五の河
[illegible]の色を思ふ志の時[illegible]哉
此枝は花ひらつよ冬の梅
雁立[illegible]の[illegible]や堂[illegible]
[illegible]を[illegible]の八秋の三日[illegible]
月待[illegible]乃[illegible]
空[illegible]雁を雀の聲[illegible]て

[illegible]を[illegible]る人乃[illegible]
[illegible]陽[illegible]乃[illegible]
舟の際[illegible]て[illegible]
[illegible]院[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]刀を[illegible]て[illegible]
園扇[illegible]顔を[illegible]
[illegible]を[illegible]
只一[illegible]
[illegible]を[illegible]

関　烏頂　當
関　頂　當
関　當
関　當

何の思ひ出てもけふ芳　玄(モ)礎(コシ)　洞
こつそうち出けり向ひよて茶碗蒸　當
正月持よ重石して有る　閑
金借る手本よ花の約束し　當
霧あらく〳〵とのうわれ三園　閒

○ゆうし紀

奇田中よ見て数ふや天の河　五道
頃遊やまたひけ向家百合の花　金鵜
騰衣乃とうまへ所や門の山　甫從

山の火も雉の焼るらん　茶古鳥　月窓
引水よ縁りきてり六萩の花　硯静
夢や啼て二度来て鳴雀　巴除
小家ぢちよ日の奥見ゆる柳か　、　其暁
振よ掛る衣の趣や影月　、　翠寶
夏の月ぬれし月は今も見　、　曉臺
さりし沢よ居るは木槿の匂ひより　、　二柳
田の中よねやらしむらふれ撞武　、　月坡
別きしそ家らし星や露寒し　、　吾峰
惜れむを眺めくらし一つ　杜宇　、　東巻

東雲や寒の内の砂丘の星　アウミ　三ノ
潮干より水涼て行　四月かな
水鄙を見るうく憐の寒百花
暮まて寒く行くさく都　イセ
蝶しもつきて房るや冬の宿
冬ゆく山ゆけハ山しく　龍丹
帰るさの扇も花乃ゆ見ゆ哉
梅ゝ寒や誰ゆく来て戸の細め
殺生ゆ山家も梅の匂ひ重　サヽヽ
鶯鳴て寒のり寒や袖の花香、

無禅　知常　万花　四澤　糸文　楚山　桂め　一朗　立志　定斜

義しく寒ふれて寒る梅の宿　ドウウウ
星合のそいて見ゝる梅の水
多ゆ来て居るや少寒の夕柳　三カハ
松ゝ枝や煙絡ふハ誰ゝ住居
菜の花乃こゆ来て寒ゝ遊ゝ猫
庵枝の花ゆ隠ゝ蕉の聲、
寒ゆ山ゝ来て居ゝ楽ゝ
梅ゝ鶯ゝ ひとつハ見ゝ雀ハ、　セウく
侯こゝ柳をゝられて雀の音
来ゝられて人の多ゝ秋の月

深山　南臺　聽松　玉蘆　三岳　黄居　一應　松軍　其董　永世

朧夜のあかつきけなる猫の恋　柏寿

朝ぼらけ蒲家や霜を亟所　恩泉

雑子鳴や初霜籬の袖れ穴　其験

邑鳴日丈の出や　五位の聲　鶴聞

うつり人も苏子ぶり蒼ぶり　竹葉

灯ともせばゆゆしき夜の雛ぶ　暮寂

上京を思ふ夏乃月　あ壺

三井寺よ中陽の夜八幡　有静

菓の花や言て帰るかいな　秋良

○ちれ花ちる

町ゆゆ身をくるり河原哉　山吉

遠のいて見る程さし月の湖　イセ

調子はしらず雑水も庵ぬ雲雀ぶ　三九八

月ちる花ぶ我ぶもおて　揚雲雀

山茶花よ鳴心ぶも　朔ぶ

合羽ぬくうる朱ぶり　揚ひを

田よ水をこぼくの出て春の月　

降紀く菊ぶ　ぶする　玉葉ぶ

名月や湖面ぶしてちる舟　ナウ

而后　梅居　翠川　市守　如流　霞名　武賀　将芝　石轉

書風やとろ〳〵向てゝ小杉系サヅ
あてゝ〳〵あるけハ涼し　世所口、
稲妻や松一本ゝ池の上　蘭秀
時雨ゆんてある品ゝる戸口ゝ　蝶睡
お行ゝる扇目ゝゆし廣小路ハリ　黄山
多さし〳〵の笛ゝ〳〵あゝむ暇ゝ　柳笛
月蔵て松ゝ日のゝ沈た義ゝ　六美
柳ゝ多ゝや地さし〳〵ゝ波舟　宇仙
雁ゝゝゝ多ゝていゝて書の風　可笑
奥拵ゝ〳〵庭ゝ上ゝや夏ゝ月　此汐
　　南湖
　　花卜

荷物やこゝの水ゝ面ハ霄のゝ　有泉
秋の日の雲ゝ白帆のゝ　湖龍
山越ゝ多ゝや田刈ゝ一ゝい　柳祭
物ゝ〳〵は月ゝ雲ゝ嵐ゝ　士明
雲の末ゝ末ゝ末の傍ゝ　斉表
小ゝゝゝと書面白ゝ多ゝ末ゝ　常石
起ゝ〳〵ゝ雑ゝゝあゝ庭ゝ角　蕉夢
おゝゝゝ沈多ゝや只見ゝ山ゝし　半父
ゝとゝゝてハ柏ゝとゝの角ゝ雲雀ゝ　一仙
山見ゝハゝ〳〵ゝ絵ゝを書ゝ誘ハゝ　宜角

咲おさまるまちまち梅のたえまより

諏訪湖上　和潮

見えそめしかの初雪　富士の山　花英

○あちこちなる

夕風や鴨も木の葉も湖の縁　山シロ　金菜

蛙鳴や降もうしのき小藤面　アウミ　三甫

初月や嵐のあふる宮の社

鴨うりや見あと消して汐さす　甚翠

朝月や塔根ちらきく浪の音　ミカ　春汀

桂壽

立さいく稲ちらゆす小田の戸

時雨るるけつくあはきや星の恵

田しるる皆立寒ゆや初時雨

乙鳥の二つ稲穂やとまり

雪遠ぬ夕や朝夕きりぬ

夕ほと越て空のきつまり

一つまりしもとつす湖の秋　花イケ

蓼てより我も君ほし後の月　セウ

鳴うぬやしに蟬鳴日ハれ

おとろいるてら宵そよ秋ぬ　ヒタ

古董　蹇馬

雙岳　陽坡

瀬石　藤架

如水　公路

一花　有美

鶏の声や夢にはかるまて秋蛍
猫の恋雪きゝ聲もあり水すて
時雨ゆもうらふれ鳴るいつ[illegible]
[illegible]とうふ苔ゆ[illegible]きゝ蛙
海山乃さらを鳴う夜の雁
朝りんきゝ蛍ゆ柿の[illegible]
誰喜も皆是も堂乃柳
五月雨の鳴雷や麻の水やつき
滝つけゆ鶏のまいる柳
水仙や藪の[illegible]根の見り

サヌキ
チヤセン
ヒヤシ
シナ

武三
秋月
其翠
松二
以仙
菊也
雀堂
都竺
其洞
韜史

思ふ一[illegible]ちよりなる柚味噌
最ハ秋の影ふ初ふ月相
朝ふ初を百つ[illegible]月
山路来て蛍ふ[illegible]ふ
朝ふ月のまゝ五位とハ蛍ふ
蛍りや袖のうこきも
蛍ふ日をいをくもなし秋の蝶
大切な芸を月ふ[illegible]
ふ[illegible]ても山を初や鹿の
秋風や鶏乃[illegible]ふ

サツ
ムサシ
ミノ

蛍
枝鳩
甫月
只冬
波蝶
古須居
龍齋
大鏡
甫水
佳暁

帰花東こみか葉の陽陰より　佳嘉
木々しやつき葉る西火影　奥毛

○たのしき

喜柳や雀と相を和し如顔　夢蝶
二所て二ツ切やまつ　梅理
如小夕鶯ゆ　武所　多代女
影ちるを寄て有よ名　與人
あのやに人る年ゆ秋ち山　如髪
元日や眺乃多ま神酒　一武

夢蝶

蝶ちるつ芋蕪
松風る伽るまゆ雀　雀森
雲の上る理あり山ち
稲妻やちゑさのハ神居し
来る秋やかゆ
帝ゑ陰や町見るあく舟の元
起ひ勢りちゆるを萩ちき
ちのゆ皆稚る入る帳
食ゆく表れ山を眺ち利
約束乃居ち小雨やかゆ

廣枝　サツマ
波文
真陽
呂風
知舟
又輔
乙宜
汝里　トヲ
梅史
騰上

野山の志ハし　鄙ち　柳ト
心合しみなよみしし　二月の日
屋敷や賜ちくめし　舟の綾　ミカハ
永ちや　松見よ　ちなそこ、
我まに　拉ふまく　園扇ト、
岑とこふ　言も　旅寐の力ド、
彩嶋し　見くこそ　山シロ　苔の窟
樹くつくつ　に月や　山彩
山寺ち　旧ちこいて　苗ち郷
岩の白や　義よ　面の言

秋芽　屠龍
南畝　流芝
魚雪　待亮
夙也　盛榎
左六　竹堂

松竹や　まくく　梅の正月よ　ヒタ
夕ちの　ちなの　こて　帰ち、
稲屋く　淋　ちなき　扇ち　シナノ
松の木と　ちしち　梅のさち、
梅ちや　雨よ　火ちた　雛　木糸　アウミ
雪こそ　れ　初ち　雨う　糸れた、
鯉　ちん　く　江の　上ち　夕ア
まちた　て　表を　滅ちな　れゆ、
松　ちの　く　拉ち　日ち　ち　表の　苔
菜の　ちよ　く　の　ま　て　の　ち　を　ち　ち

東有　宇洋
得之　宋友
石年　蕙布
梅亭　石舟
桂園　錦水

玄の友二人よ年々暮るるまで
住乃松つゝしや冬こもり　巨妻
松ゝもさらや牧生よ打ゝる　知十
春田見る新ゝや路の曲り角　薇城
見る度ゝ振の行ゝる柳ゝ　旭松
　　イセ　　山ほ

○月さゝゝ

一雲よ焼ゝる雛の御殿ゝ　一湖
鶏の羽先廣ゝるあゝもゝ　一貫
日ゝ入もゝ月ゝ加ゝゝおゝ蕊　和樂
　　ミカハ

潮ゝゝる葎も青む四月ゝ、
刈竹のまゝて雲の程ゝ郭　ヤツ　葛尼
ゝつちゝと落れ吹柚田哉、　十宅
月ゝゝて又ゝゝ川の清水ゝ　吳老
名月乃見ゝゝ明ての霧ゝ　ヒセン　雀巣
朝時や松の脊中の雪れ　タシ　其雑
蕊蕊ゝる中ゝ一木ゝ　サキスラ　蘇道
雪の根もゝゝて身の清水ゝ　琴笛
乙鳥れ目つゝひゝ事やいな　ハリ　芳水
木乃芽ゝゝ名木ゝ松の風、　瓦山
　　寒泉

吹くるまもなく　柱屋主人

小雪待やう月のまつ山の影　魯人

待兼て揚る雪雀やてくるまの　五巣

門くるや投出してあり塵氷、　獣山

涼しさや月は浮かぶし波のうち、　圓釋

雨晴て奇麗よ舟のつくるまの、　竿村

油ひかせし甲斐有り雪の朝朗　免溪

花枝乃霧とりちらりつるみも　桃五

咲ける日ハまつもとにして　杜鵑　山口　旭湖

まるまるしく揚よ芒る霧の玉　梅堂　舟シ　蓊乙

目さめしまま巖の苔やとの秋　九皐

月も降やしたくるり書の雪、　耳彦

甘干よ和泉路るし　俳の内、　一哺

人多のまりくるまるて　雙鳧

見功ちもいとせぬ菊の多さ　東輅

月を洗ひ星と慶て　時雨ふり　露雄

降さハと明る朝戸や　沙鷗

○ちりなくる

立貌や　ちりまりくるる蓮の花　鹿野

[illegible]や[illegible]の[illegible]
[illegible]こ[illegible]や[illegible]と芽[illegible]、
持[illegible]の月[illegible]
[illegible]、
いつ[illegible]人[illegible]菊の宿
[illegible]しやとい[illegible]伽藍ト、
[illegible]木の[illegible]月
[illegible]、
[illegible]自、
[illegible]や[illegible]、
[illegible]の[illegible]の月

山ニ口 蒼虬
不屑
チセン 四軒
立沙
ハリ 克秀
五芳
三カハ 成也
彩角
波文
馬迎

[illegible]雨や[illegible]の[illegible]
[illegible]や一[illegible]、
[illegible]や[illegible]と見[illegible]、
[illegible]ハ鴨の[illegible]ト、
[illegible]の[illegible]の[illegible]月、
[illegible]や[illegible]の音、
[illegible]、
[illegible]、
[illegible]の[illegible]、
[illegible]、
[illegible]の[illegible]、
[illegible]

セウ 蟻兒
如箭
ヲ乙
イセ 嵐盛
兎園
鶯立
杜衡
琴士
書紙
梅葉

秋の海　白鵬
ちつと波とゝまる清水の濁り　風馬
松の月宮ゐはたや森もしつゝ　雪居
朔れるやふハ〳〵と相一葉　宇卯
初て見るハさるもたき落の下ト　日人
三日月をまゝ〳〵為きし波冬木立　懐松
ひとゝ居をハ唯一葉ちるとゝ　竹甫
ちる音れ先〳〵ゆる一葉哉　庭雅
蝙蝠の寄るゝ夜の雨　嵯蘭
卯の花や竹ゝ波を留る門　巴由

稲ゝ日のゝつゝゝとのこる　雪居
蝿追ゝて石菖を見ゝ居ゝる　茂堂
菜の葉も乾ゝして束や蛾の濁ゝ　一瓢
蕎や蹄の宮もまゝ〳〵月も　一甫
ゝゝゝゝもせずに芒の入日か　鶯石
笹の葉もうこゝぬ雨れ五月ト　壺仙
牧の居ゝぬ寺にも居や萩の月　里有
木ゝゝしの絶る根深しつの松　大巣

○おりしゝ孔

面白き物語り出し海苔の砂　士明
朝ゆふの色も雲のかたちかな　ムサシ　久滅
萩の雨三日の旅も振こゝろ　雙湖
朝〳〵や月〳〵雲も見えぬ　アウミ　虚白
千雲来る夜汐や梅の一あし　菊住
秋風や都一面つゝ咲れ穴　カヒ　漫〻
〳〵ちらやまき〳〵ちらもの菌狩　金毛
人ふついて来るや汐干の色〳〵　菊志
袖よ来る蚊もふくらし汐秋の月　トウミウミ　東草
嘉の色のちらふ見ぬ花ちらし　蟬禾

舟嘉〳〵笠よあまりぬ夜乃雪　是水
鶴ちりて冬のゆや嘉の基　イセ　蟻封
喜雨や咲の志みれ来〳〵の奥　志道
嘉笠吹と見も八剣原の庭来　琪石
雪ちらや体動やもの有かし　小立
ちらし〳〵松〳〵かるや世の柳　山シロ　几乙
借り家の格のものし冬乃秋　木鶏
二三足梅よ借〳〵足駄ト　南窓
〳〵鶏鳥〳〵と遠て雪や雪の口〳〵雪　義雅
ゆもも来て西や〳〵と鶏の長　餘祥

大雪と園も月夜のかりがね
梅ちる雨も世の中のある人を
引留る雨絶えり身の雨

梅園
不轉

春柳
其洞

月守

惟一

一扇

豊園

春水

茂堂

春ふかし枝ゝ舟の棹手風信下
柳出るよりけ柳や 深雪

柳のよりに紅梅合かりちる雨ひさし
風ふかぬ葉ふの下一ふ戸口下
山道下ひ柳多きけりふか
菜の花や流れて沙ふ山ふ
立けもいの多ふ梅の花

三九八

菜所
琴左

宜彦

雀人

浦六

由丸

月汀

○ちるみやうけ
小田原ふ水ふ体ふ命ふ

州路

町中や山水きよし　栗乃花　イセ　昌作

ちらし蕎のさしてもちらや苏子の花　雪東

紅蜜よ響の鶯ちらしきれ下　菖吾

夕立やちらや伊吹よ八月ちまち　サワ、　蒼流

ちらし朝いまちや梅の花紡きちり　傷水

青の雪降ちまゆちよりけちり　山シロ　蕎堂

あちらきす立よ青しも竹立　野童

ふけちよ咲ちし蛙蛙ハ色よ青　五葉

あちこちと思ふのよしちれ菊　千草

正月も二日よ歌ぬ　青乃月　アウミ　籠山

猫の恋　年部屋ここて初恋　ミカハ　花屑

夕立れあとと見よ青深色下　陳令

よきき菓蕉咲ちちりや青の雪　ヨウ、　一小月

咲ちや　蕉よちち　梅洲

○ゆくさう　ゆる

弦稲ふ冬こ機青　汀色下　イセ　雪石

咲つみの上の出ちり青ち山　イド　一呼

正月ち梅よ付ちち冬こ市ち　晩穎

稲刈ちく秋のちのしき立前下　鉄舟

ゆうしハ新形や梅の花　号雅
伊古こやうき言とおし小田の雀　タヽハ　武陵
海山の月子立や稲の波　ホヽヽ　野艾
稲の穂や義ぶこゝて秋の風　ハリヽ　如風
富士淀と芝ぬ白ゝ刈　ムサシ　伯夫
風毎ゝ立ゝ分ゝ立ゝや麦ぶ水　ミナノ　至鳥
麦穂や弱縄の縄のゆゝ言　何宵
水ゝ行ゝ田ハ水多の井ゝ郎　ヽ　分亭
元ゝや伊ゝ知ゝ知ゝ蒼埃　セツヽ　井眉
名月や延二枚も互ゝ下　下ヲ　南糸

○さゝ山もゝ紀
立て真ぶ繰ゝ立ゝ国扇ぶ
敢考ゝのまいゝ月代の風
鮎ぶゝ取桶のうちこけく
蒲の雛を活鯉ゝ遊ゝ　梅閑
紅梅ぶ白ゝけ者の上ゝ口　義堂
いけ火乃ぶゝぬ程の暖　春巣
御ゝ言と延ひゝ金ゝ滅ゝ　閑
笑へのかゝ関の鶯　堂

蕭洒たるうるはしく知るべき知らぬ振
舞をしめす人もあるべし畫の社祢
各月を詠ずるすきて家節分
枝の世語いい秋の下り日
水痩ふるくのこる草の細
妙義の町をこえぬ高せぬ高
波の髮是果てさいはてもくと
ものこころしてをいる高位
雀鳴くく氣のつく花の枝くを
春鶯の出くく酒をみる中

巢閣堂巢閣堂巢閣堂巢閣

西紹の汐干帰ることこまれ
をこくく掃てける樓櫛筆
旅やはまもせぬ我答る也歌心
くく年ハるくくなる庵花
昔なくぬちと出塚を築ける
石燈の移を移上る多恵
舟をを多程よ京こを清用船
出るるくく移ふくくけるる鳴
痩くくて焼場の灰をうきあげ
用之しこうる来と傘ゥ世くよなる

閣堂巢閣堂巢閣堂巢閣

人魚ハ二尺ばかりの角力とり
神田祭れ申へ出る 月
灌仏ハ見物の恋ハ気もそゞろ
枕ハ〳〵 ゑんゝ 起ハ
金魚ハ鯉い者と焼立ゆ
市次坊 まゝれ申ハ
ところもりもの花の
たゝれ〳〵遠干場てり毎

愛知県
1105087663
911.35
ハイ
508766